

OnAir 3000 ユーザーレポート

株式会社 IBC 岩手放送 様

OnAir 3000-18F



ラジオ第 4 スタジオを OnAir 3000 で更新



株式会社 IBC 岩手放送
放送本部 編成局 技術部
佐々木 真也

第 4 スタジオ

IBC 岩手放送では、長年使用し続けてきたラジオ第 4 スタジオアナログ音声卓及び音声周辺設備更新にあたり、STUDER 製の OnAir 3000-18Fader を導入し、2014 年 12 月から稼働しています。OnAir 3000 の機種選定については、2009 年に生放送スタジオであるラジオ第 2 スタジオの更新時に、色々な機種の比較、選定基準をクリアした OnAir 3000 が採用され、実際の生放送運用において、各スタッフからの高い評価を得ていた実績もあり、制作担当現場から今回の第 4 スタジオも、「第 2 スタジオと同様な使い勝手を！」との強い要望がありました。そして、IBC 岩手放送としての 2 台目の OnAir 3000 採用となりました。



第 4 スタジオの旧設備は、20 フェーダーのアナログ音声卓でした。用途は、主にラジオ番組の収録・編集ですが、広いアナブース（約 22m²）を利用して、弊社伝統の民謡番組「歌って笑って!! 民謡まわり舞台」生演奏生放送・収録をはじめ、各界ゲスト対談、ラジオドラマ収録、また、万が一の生ワイド用の第 2 スタジオ障害時に、代替スタジオとしても使用されてきました。このラジオ第 4 スタジオは、IBC 岩手放送のラジオ番組を確実に支える非常に重要なスタジオとなります。

入出力

そんな重要なスタジオ更新にあたって、仕様はラジオ第 2 スタジオに習いつつ、限られた予算内でも、このような様々な用途に対応するため、収録では使わない中継系入力を MIC/LINE IN CARD への入力とし、入力数を抑えつつブース内に 10 本のマイク追加を容易に可能にしました。一方、出力数は第 2 スタジオと同じ数を確保することにより、バックアップ・スタジオとしての仕様を守りました。また、コントロール・ルーム内スペースを占領していたテープレコーダーやターンテーブルを全廃したのですが、制作担当現場からの強い要望で、最終的に 1 台ずつ戻しました。社内の音源メ

ディアは、HDD やメモリー系のものに移行しつつありますが、弊社では、まだ、6mmテープとレコードが健在です。

納入後の様子

新設備の検討では、使用状況を鑑み『よりコンパクトな“つくり”を目指すべき』との社内の考えもあり機種決定まで難航しました。また、弊社の電話リクエストシステムが複雑で、これに対応するシステムをシンプルにかつ実用的にするため、各機種選定から音声及び制御設計まで、打ち合わせではスチューダー・ジャパン・ブロードキャスト様、テクト様と一緒に、一つずつ確認して確実に進んでいきました。努力の結果、最終的にシンプルかつ柔軟で、実用的な運用に対応のできるシステムとなりました。今回更新した OnAir 3000 を含むラジオ第 4 スタジオは、ラジオ第 2 スタジオ同様に現場からの評価も高く、安心して生放送、番組制作できるスタジオとして日々活躍しています。更新完了まで長い道のりでしたが、改めてスタジオ・システム構築の思想の大切さを再認識しました。最後に、この度ご協力して頂きました関係各社の皆様に感謝します。ありがとうございました。